

海外感染症流行情報（2014年5月）

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・サウジアラビアで MERS 患者数が急増

今年の4月以降、サウジアラビアで MERS コロナウイルス感染症の患者が急増しています。4月11日から5月18日までに同国で発生した患者数は345人にのぼり、ジェッダなどで病院内感染がおきている模様です（WHO Global Alert and Response 2014-5-7, 15, 22）。また、患者発生は中東以外でもみられており、米国では5月に3人の患者が確認されました（WHO GAR 2014-5-5 15, 22）。このうち2人はサウジアラビアで医療関係の仕事をしていた時に感染したと推定されています。さらに、オランダでもサウジアラビアからの帰国者2人が発病しました（WHO GAR 2014-5-15, 16）。この結果、2012年以降の累積患者数は5月22日までに632人となり、このうち193人が死亡しています。こうした状況に対応するため、WHOは5月14日に緊急会議を招集しましたが、公衆衛生上の警告を発するまでには至っていないという結論になりました。サウジアラビアなど中東諸国に滞在中は、呼吸器症状のある患者に無防備に近づかないようご注意ください。なお、日本の厚生労働省は5月19日に医療機関からの MERS 患者の報告に関する指針を発表しました。

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dl/20140516-01.pdf>

・アジアでの麻疹流行状況

今年はアジア各地で麻疹の患者数が増加しています。フィリピンでは4月下旬までに2万6000人の疑い患者が発生しており、マニラなど都市部で患者数が多くなっています（CDC Traveler's Health HP 2014-5-19）。ベトナムでもホーチミンで4月までに1400人以上の患者が発生した模様です（ProMED 2014-5-2）。さらに WHO の報告では、中国やインドネシアでも麻疹の患者発生が多くなっています（WHO Measles Surveillance Data 2014-3-6）。今年には日本国内でも海外からの麻疹輸入例が増えており、アジア諸国など流行国に滞在する際には事前のワクチン接種を検討する必要があります。なお、日本では20歳代後半から30歳代の世代で麻疹の抵抗力が低下しており、この世代の患者数が多くなっています。

・ベトナムで狂犬病患者が増加

ベトナムでは2013年に全土で102人の狂犬病患者が発生しており、その数は最近増加傾向にあります（Fit For Travel 2014-5-21）。首都ハノイでは過去2年間、患者発生がありませんでしたが、今年の5月に2例の患者が発生しました。ベトナムに滞在する際はイヌに近づかないように注意するとともに、狂犬病ワクチンの接種も検討してください。

・西アフリカでエボラ出血熱の流行再燃

西アフリカのギニアで発生していたエボラ出血熱の流行は5月になり鎮静化していましたが、5月下旬に中部の Telimele で再び患者発生がみられています

(WHO GAR 2014-5-24)。この地域では今までに患者が確認されておらず、流行が新たな地域に拡大したものと考えられています。今年、ギニア全土で発生した患者数は5月下旬までに250人となり、このうち174人が死亡しました。なお、隣国のシェラレオネでも5月末に患者の発生があった模様です (WHO AFRO 2014-5-26)

・ブラジルでのデング熱、インフルエンザの流行

ブラジルでは今年の1月から5月中旬までに32万人のデング熱患者が発生しており、サンパウロなど南東部で患者数が多くなっています (ProMED 2014-5-15)。また、6月以降はレシフェやナタールなど北部の海岸地帯で患者数が増えることが予想されています (ProMED 2014-5-20)。この2つの町では6月にサッカーワールドカップの日本戦が開催されますが、日本からのサポーターは現地で蚊に刺されないように十分ご注意ください、なお、南半球のブラジルでは6月～7月にインフルエンザの流行も発生します。スタジアムなどの人ごみではインフルエンザに感染するリスクが高くなるため、手洗いやウガイなどの予防対策をとるようにしましょう。